

きらりこのひと

音田豊美 さん (別所)

見ているだけで、心が温まるかわいらしい絵。まちの皆さんが楽しくなるような絵を書きたい。根雨宿一番館で働く音田豊美さん(別所)は、同館のチラシやポスターなどを自分で作っています。その絵は、とても評判で、同館の集客効果にもつながっています。今回は、音田さんにインタビューをしました。

今月号の広報「ひの」の表紙は、音田さんの作品です。



大きな障子もキャンパスに変わる

絵でたくさんさんの思いを表現

絵をかきかけは—

根雨宿一番館に勤めるようになったのがきっかけです。絵をかきかけだったので、仕事で興味を生かせることができていると思います。多くの人に支えられて絵をかいています。皆さんに感謝しています。

広報紙の表紙を担当して—

特集では、地域の人のがんばりが取材してあるので「みんなが楽しく元気になってほしい。特にサンタクロースは、夢を大切にしてほしい」と思いを込めました。

広報「ひの」には、住民と行政がいつしよになって作る広報紙を目指してほしいです。一人ひとりが、毎月楽しみにしている。そんな広報紙をこれからも期待しています。

どのような一番館に—

「ここに来たら何か楽しいことがある」と、みんなが集まってくれるような店にしていきたいです。店内には、町内の商店・個人のすてきな商品を置いています。一番館で

は、そば粉などのそば商品やおしどりの詩(お菓子)がオススメです。一番館では、こだわりのそばを出し、とてもおいしいと評判です。



根雨宿一番館に勤める音田さん

どのようなまちに—

まちを離れても「日野町に帰りたい」そう思える場所であってほしいです。また、それを温かく迎えられる地域であってほしいです。子どもたちをはじめ、みんなが夢を持てるまちになってほしいです。

これからの抱負は—

絵は、言葉では伝えにくいことを表現してくれると思います。これからも、みんなが笑顔で、元気が出る楽しい絵をかいていきたいです。何にと「楽しい」が一番です。